

「食事の後の発疹」



2012年、食物アレルギーが原因と推定させる学校給食での痛ましい死亡事故をきっかけに、全国的に食物アレルギーに対する関心が高まり、対応策が進められています。食事後の発疹は食物アレルギーが疑われますが、それ以外の可能性もあります。症状が出た時の状況（何歳の時、どこで、何を、どれくらい食べて、どれくらい後に、どんな症状があったか、その時の写真）は非常に参考になります。これまでの状況をできる限り整理

してかかりつけ医に相談することをお勧めします。食物アレルギーの頻度は年齢でばらつきますが、概ね100人に数人ほどです。湿疹が関連するもの、食べて2時間以内に出現するもの、口・喉の症状が主なもの、食べた後に運動をすると出るものなど色々あります。原因となる食物は、乳幼児は卵、牛乳、小麦が多く、年齢を重ねるにつれ、徐々に食べられるようになる傾向があります。逆に学童以

降になるとエビ、カニ、そば、果物などが多くなり、一般的に治りにくいとされています。アレルギー症状は様々で、食べた物・量、本人のその時の体調などで出方、強さは変化します。一番出やすい症状はじんましん、腫れるなどの皮膚症状で、他にも呼吸器症状（息苦しい、ぜいぜい）、腹部症状（腹痛、吐く、下痢）や、重篤なものでは全身に多様な症状を一度にきたすアナフィラキシー、さらにショックとなり命に関わる状態になることもあります。症状が出てしまった（出くわした）場合は、症状が強い・弱いに関わらず、処方薬の使用も含め、いち早く対応することが大切です。症状の強さの判断は難しく、進行も予測できない場合があるので「強そう」と思ったら人を集めて助けを求め、本人を動かさずにその場に寝かせ、必要なら救急車を呼びましょう。

函館中央病院
小児科
岸田 真
医長

[略歴]

平成18年、北海道大学医学部医学科を卒業し、兵庫県小野市立小野市民病院に勤務。平成20年より日本赤十字姫路赤十字病院、平成23年より函館中央病院小児科勤務し、同年、函館中央病院小児科医長に就任。日本小児科学会専門医。



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <http://www.chubyou.com/>

診療科目／内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、
心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全22科目
受付時間 8:30～11:30・13:30～16:00※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。
休診日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)